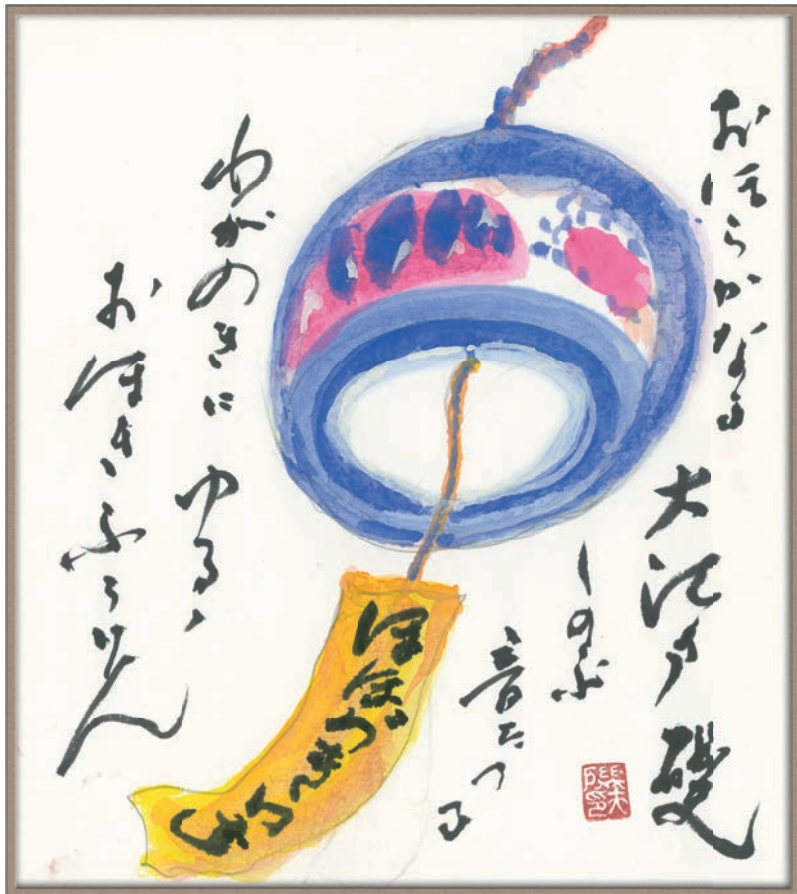


# 三河 アララギ

2022年 令和4年8月 葉月  
はづき

八 月 号

第 六 十 九 卷 第 八 号

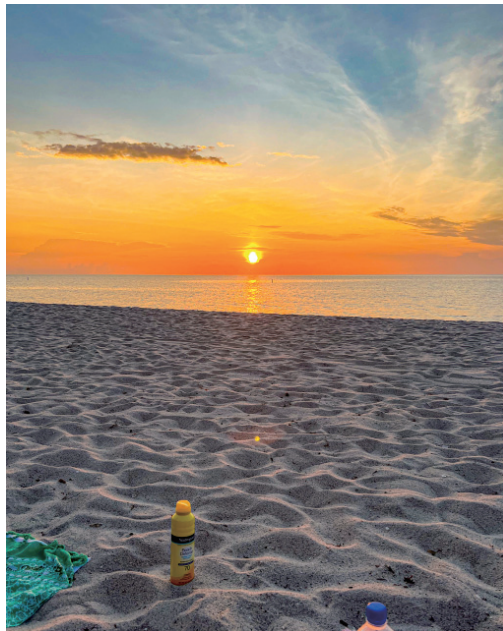


ニューヨーク日記(190) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

SUNRISE YOGA

## Blue Shoe Diaries



海で、ビーチで朝一番の日の出と共にヨガ。これより良い目覚めってある？  
こんな時も日焼け止め忘れずに。  
クラスが終わる頃にはすでに暑いし日差しも結構強い。

Yoga on the beach at sunrise is the best way to wake up every morning! Don't forget your sunscreen even at sunrise. By the end of class, the sun is pretty strong and the temperature, hot!!

# 目次

## 第六十九卷第八号(通卷八二四号)

表紙・ふうりん 御津 磯夫(1)

ニューヨーク日記(190) Blue Shoe(2)

歌集 わが冬葵 御津 磯夫(4)

歌集「續々草々」 今泉 米子(5)

昭和46年二月号作品 大須賀寿恵(6)

昭和46年三月号作品 夏目 勝弘(7)

平成元年六月号作品 / 岡本八千代(8)

昭和64年一月号作品 弓谷 久子(10)

夏椿の花 今泉 由利(12)

檜 安藤 和代(14)

いそいそと 山口千恵子(16)

無事に帰れよ 清澤 範子(18)

母親の如く 杉浦恵美子(20)

梅雨晴れ 伊藤 忠男(22)

能登の旅 白井 信昭(26)

病棟八階 矢崎 直人(28)

これからを 『いこよせ』

『いーはとぶ』

水野 絹子(30)

牧原 規恵(30)

稲吉 友江(31)

鈴木美耶子(31)

吉見 幸子(31)

牧原 正枝(32)

森 厚子(32)

山崎 俊子(32)

伊藤 晴江(33)

三田美奈子(33)

小野 温音(34)

横田虎之介(34)

神原 結奈(34)

井澤 莉子(34)

高田 陽太(35)

高原 煌世(35)

山中 圭(35)

大熊 将晴(35)

植村 公女(36)

木村 歩歩(36)

今泉 如雲(36)

附録(二) 今泉 由利(37)

五感を澄ませば(2) 矢崎 直人(37)

楽しい時間(117) 矢崎 直人(38)

『酔いの徒然』(124) 杉浦恵美子(39)

歌え童謡空高く / 丸山醉宵子(42)

かあさんいますよ 高橋 育郎(44)

絹の話(141) 今泉 雅勝(46)

「江上浩二の独り言」 江上 浩二(48)

初狩便り9 花野みぶり(50)

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬 本田 勇氣(52)

康鍼治療院 玄翁 (54)

家に還りて感有り 横山 精真(56)

外国へ赴くを送る 今泉 由利(58)

「水魚のことから(258) 岡本八千代(60)

編集室だより 今泉 由利(61)

「三河アララギ」について (62)

歌集 わが冬葵

御津磯夫

夜となれば雨といふ日の夕べちかき光の中にしばらく佇ちぬ

芽立ちよりものに継らむ象して木のもとに朱く萌えいづるもの

わずかなる平を地より現はして埋もれてゐる庭の飛び石

紅のかうべ垂れゐるを摘みつみて食らふものならずひんばふかづら

薄明のはやき朝々うつつとことわりもなし老いの眼覺めは

生きのこる幾ばくありとも老いぬればわれはまだ讀まず地球終末論を

缺刻なき細長き葉のやはらかしこれぞ在來種東海たんぽぽ

筍の正しきすがたに立ち揃ひみづから黒し黒竹の子は

五基ありて石燈籠の見えぬまで茂り繁れるわが庭を愛す

筍に鋏ふるふ季にまにあひぬ心勇めるしばしのよはひ

歌集 「續々草々」

今 泉 米 子

プランターの莢豌豆の莢は朝々の汁の実となる翁の手より

さやさやとこぞり萌え立つ千万のみどりも淡き草蘇鉄羊歯

草蘇鉄卷葉ひろげつつ萌えたつを見つともけふも硝子戸の中

渋滞に未だ東京へは着かざらむおそき夕べの雨の音きく

築山をめぐりてえびねのいろいくつその時々と思ひをおもふ

いづこへも出で歩きせざるわが家にしばらく加茂の桂の小枝

まだ竹にならざる今年の竹の子の秀先するどく高々とゆらぐ

響して吹きぬし風の静まりぬ庭の三ツ葉を摘まむかと思ふ

プランターの莢豌豆を摘まむかな長き夕べの明るき中に

待ち待ちし花たちまちに過ぎゆきて萌黄若葉に雨降りにけり

## 昭和46年2月号作品

大須賀寿恵

署長会議のお茶掬みしをりジュウタンの織模様などにつまづきながら  
病み続け勞れ果てたるわれにまた特別昇給の辞令下りぬ

明日といふ日はよしゑやしいまわれは行火二つの床に安らく

十代より胸患ひて臥し続け進学ならざりしを今に思ふも

背の骨の腐れは肋につたはりて二本切られき二十年前

わがひとり住むべき家の建前のもちひ食ひつつ母は逝きなき

ながながと友は話して帰りしが先行経験といふ言葉の一つのこれり

大声を上ぐれば癒ゆるといふならず足が痛いと喚きてみたり

注射さるるときに身内を走る痛み想ひておづおづ右肩を出す

萎えし足の趾にもはやく伸び出づる爪しろじろししなへることし

## 昭和46年3月号作品

夏目勝弘

夜の庭にもものゝ墮ちたる響きありしばらくにして夏蜜柑と知る

国分寺国分尼寺のなごりならむ八幡の家にかこむ石垣

しめりもつ赭土落しぬ断片に布目とほして大き指のあと

竹藪の土にかへらむとき思ふ礎の石は巨き片麻岩

ただいま「京都冬の旅」の特別公開にて工事なかばの寺も見せてゐる

思惟をする頭部ののこる石仏霜柱くづるる母心院の趾

枯葦の音する池をめぐりきて名古曾の滝は枯葦のなか

大沢の池の濁りをめぐりきて衣特大の天ぷらうどん

円形の吉野窓より乏しき光り哀れを恋ひて賑ふ祇王寺

嵐山の方より飛びくる雪ならむ鹿王院の日の照る庭に

平成元年六月号10作品 蒲郡 岡本八千代

夫のゐる二階へ上れば忽ちに匂ひくるかなエマルジョンの匂ひ

エマルジョンの匂ひ籠れりこのま昼夫のひとりの狭きアトリエ

パン食の昼の支度の出来たればけふもまた夫を階下より呼ぶ

買ひ来たりてよまざるままの踊踊踊の上下二巻は机の上に

忘れ難き思ひ無けれどこの夕べいつまでも白しひめうつぎの花

一杯の心太ところてんを夫と分かちつつ啜る夕べのこの夕あかり

広げ見る絹地の風呂敷大きくて赤地に唐花縹地はなだに花鳥文

藍淡き色は夾纈きょうけちの縹色はなだ向き合ふ小鳥は花喰くひ鳥なり



昨日のラメ光るわがロングドレスに晴れたるけふの風を通さむ

わが萩の若葉を喰ひゐる萩毛虫けふもわがとる憎しみもなく

昭和64年一月号5作品 蒲郡 岡本八千代

夏の日のわが靴紐を洗ひたり二すぢ白く風にゆれをり

いつ買ひしかわれの書棚にはさまれて「娘を早く嫁がせる法」

きのふ着たる晴着をけふは畳みをり色の褪せたる花莫塵の上に

ほのぼのとうす紅に見えてをり夕焼けどきのダチュラ垂り花

高々と垂れる陀兜囉の花ま皓しろ今日は三たびもこの花の下

## 夏椿の花

豊川 弓谷 久子

月に一度の定期検診車窓より早苗田見れば故郷を憶ふ

駅より一里町まで三里坂道の農村なりき我が故郷は

数知れぬ蛍舞いたり故郷の夜田植えすみたる青田の上に

父母の齢はるかに越えにけり故郷は遠くなりけり

軒下の古巢に今年も帰り来しかつばめの声の今朝は聞ゆる

玄関の庇につばめ裏庭に雀寄り来る我が日々樂し

食パンを細かく砕くも我が仕事ついはむ雀の数をかぞえる

真白き花が一輪咲きゐたり一枚貫いて夏椿の花

夏椿の花の白さよ沙羅双樹の花の色かと思ひてゐたり

忘れぬ悲惨なくさ沖繩戦今日は終結記念日なりと

同世代なれば心が痛みたり若き命のひめゆりの塔

夜よりの雨上がりたり庭隅にコキアこんもり若みどり色

余りにも遅き梅雨入り例も無き早き梅雨明け猛暑来りぬ

エアコンを入れよと子よりメールあり真夏の服に我は着替える

この先は永き真夏か心せむ雲ひとつ無し水無月も逝く

## 檜

東京 今泉 由利

日の木にてヒノキ科ヒノキ属針葉樹聖観音像彫りゐるところ

びひとりぼっちとは思はない両性を超越された聖観音様と

インドにて紀元前六世紀に成立の仏教ひもとく檜彫りつつ

天を向き木目正しく直ちよくと有り檜の根方にしばし立ち立つ

古代オリエントの香りかと線香のほほけゆくまで

オリエント・インドとつなぐシルクロードそして我家に清浄心身

麦畑の稔りの色のとなり田の田植の水面鳶を写す

馬齡薯の花茎高し淡紫にアンデス山脈空の色して

まず私の指先を染む紫にアカニシ貝の命の色は

佐久島の黒南風くろはえに吹かれいる長く長く連なる堤防

ベランダのブーゲンビリアの枝々の鋭き棘に刺さるよ刺さる

檜にて聖観音像彫るときはほのかに香るほのかにうれし

アマゾンのジャングルに分け入りぬジャックフルーツの木に触れもして

幸運をもたらすとジャックフルーツの木僧衣を染むる黄色染料

ジャングルに正しくありきジャックフルーツの木直ぐ立つ姿描きしことよ

## いそいそと

豊川 安藤 和代

山脈は緑もくもく吾れ好きな季です庭に深呼吸する

晴天の続きし庭よ雨呼ぶや蛙の声の空に広がる

郵便物孫子のものが多くなり友の便りを胸深く抱く

娘の来る日部屋の掃除も念入りに髪ととのえていそいそと待つ

土曜日は娘との昼食楽しけれ語りて笑っておかわりもする

若葉から青葉にかわる庭木々の競争の如枝伸ばしゆく

やさしかりし母よりこわき父の事思うのはなぜバラは満開

虫も又生くる為ですラ  
ドイツシユの新芽を丸くゲジゲジと食む

五十過ぎの息子の帰りの早ければ遅ければ案ず親バカの吾れ

裏庭に咲く十葉のひと枝を飾れど誰も草と気づかず

紫は雨に似合いの色なるやあやめ紫陽花馬鈴薯の花

鉢植えのサギ草の群今まさに飛び立たんとす白きがまぶし

水張田は土手のあお草くつきりと夕焼け雲も写し暮れゆく

ドラゴンズ勝てばビールが旨いと言う友はこの夏曾祖母となる

亡き師をば偲べど長し短歌詠みの同じ思いか山鳩の啼く

## 無事に帰れよ

豊川 山口千恵子

突然に見知らぬ人の訪ねきて小さき冊子置きてゆきたり

置きゆきし冊子をとりにて開きみる心の持ち方などを説く記事

運転もこのごろなれたと桃子言ふ出でて見送る角曲がるまで

寄りくれし孫によるこぶ夫とわれ無事に帰れよと見送る祖母われ

廃屋の庭に稔れる梅の実の黄色に熟れて地に散り敷けり

瑞々しき新実でたる槇垣に添ひつつ行けり露地を行けり

やはらかき緑におほはるる大楠を仰ぎて一つ深呼吸する



隣人は介護施設に入りたり今日プロパンボンベ取りはずされゆく

娘と行きてスーパーに買物しておりぬ夫々の家の夫々の物

ひるがへり地面すれすれに飛び交ひし燕の姿見ることもし

電線に囀り交はす燕の声きくこともなく梅雨に入りたり

青さ増す植田の稚苗そよがせて涼しき風吹く野の道をゆく

かがみつつ庭の草取りしてをりし媪の姿久しく見ざる

垣根よりたわみとび出し咲きてゐる紫陽花一輪紫の花

あの角を曲り通りに出で帰らむ歩みの遅き夫との散歩

## 母親の如く

春日井 清 澤 範 子

キッチンの床に転びて左手骨折せり松澤先生は直ちにギプスを

家の中で躓き左手首を折る痛み出したりじっと手を見る

それにしても左手で良かった足でもなく右手でもなく快復は二ヶ月とのこと

娘は吾に替りて洗濯をして取りこめが陽の匂ひぞする

スカーフを三角布にして時すごすFM愛知ラジオを聞くよ

何もかも娘に任せて具合良く吾のわがまま許してくれる

神経の診察に来ぬ重心とれず医師は私を抱き上げて下さる

吾の呑む薬は青赤黄の十二粒他に利尿剤二錠の追加

側溝に落ちし落葉を掃きて来た娘はお茶をお替りし

お母さんポストにアララギきているようらしい言葉に私はうれしく

左手のギプスの後にひねりあり娘の世話が母親の如く思へり

何も出来ず左手の骨折なり自分の手を重ね握手してみる

朝食の仕度食器洗い洗濯と吾の主婦業娘が替る

厳しき顔が笑顔になるまで一時たてば元気に「ハロー」

わが町の中島さんは気づかってぼたんアジサイ花持て下さる

## 梅雨晴れ

蒲郡 杉浦恵美子

梅雨晴れ間すること多き朝なのにふと押入れを覗いてみたり

押入れを覗いてみれば忘れてた仕舞ひし儘のレースのブラウス

夫逝きて干支一巡り我が細胞も全て替りてゐる筈なのか

組長会終りて戻る我が住処門灯ぼつと今しも灯れり

午後七時明かり灯れど暮れなすむ我が家の界限暫し眺むる

ゆくりなく齎されたる三キロの青梅はてさて俄に梅仕事

三キロの青梅眺めてひと思案梅干し余れりジュースは飲まぬ

さてはとてジャムに仕立てん急がねば一日毎に完熟進む

此処はたしか中華料理店にてありき今は貸家の札が立ってる

あの人と幾度か訪ひしこの料理店かの人等とも疎遠になりぬ

十年は交友範囲も様変わり回顧のみにて話は弾まぬ

おそらくはかの人たちも我のことすっかり忘れてのことだろう

哀しみをちよっぴり抱へて十年前暮しし街を歩んでみたり

夫居ねばこの街哀し目に映る全てが想ひ出引き出さるから

豊橋の午後の街中歩んでる何十年暮せど今は他郷の

## 能登の旅

大阪 伊藤忠男

遠出する車の検査抜かりなしなれど我が腕信じられるや

わが友の多くは免許返納と風の便りにわが耳に入る

名神を通り米原北陸へ梅雨明け空は雲一つなし

北陸の道は生まれて半世紀なのにあちこち治療中なり

なんとまあちよつと走ればまた車線規制中にて緊張の極

横道に入りなぎさを走る道すぐ横波が押し寄せてくる

砂浜を意のまま走る車道白波横目に空がまぶしや

梅雨時は閉鎖が常のなぎさ道暑き今年の許し乞いかも

一流のもてなしこれぞ我見たり心読み取り言われぬ前に

靴底のはがれ見えたか仲居さんそつと差し出す瞬間ボンド

何気ない話をヒントに次の朝これはいかがと差し入れがある

人通り少なく貧相な朝市の看板揺れて横に傾く

朝市の人まばらで寂し気に焼きイカ返す売り子の姿

海中でキリコを担ぎ禊する夏空まぶし大漁祈願

能登の海どこから来たかこの民をキリコで迎え安全祈願

漆塗り沈金まぶし箸づくり慣れない手つきで輪島体験

トヨの字を掘り込み仕上げ満足も母校の違う家内に不評

平板の練習彫りも甲斐が無し曲がり有る箸意のままならず

海目がけ傾斜し続く棚田降り戻ることには思い及ばず

海水を汲むは三年撒き十年我も挑戦潮撒きのコツ

どこからか訪れ行き交う港町開け明るい人ばかりなり

源氏より隠れ暮らした時国の山の里村離れ人なり

海水の入り口僅か七尾湾内海ならず湖なりや



能登島にいつ入ったかいつの間にここが島とは気づかぬままに

今昔桁違いなる技法なりガラス細工の進歩目覚まし

上杉を村人奇襲し追ひ払う御陣乗太鼓これ戦(いくさ)なり

村人の心意気なるこの太鼓能登の誇りか伝え伝わる

荒々し勇猛なるや祈りより戦い挑む太鼓珍し

八十の旅は次へと引き継がる次は米寿と心急くなり

## 病棟八階

豊川 白井 信昭

隣家の塀に垂れ咲く藤の花窓越しに見ゆ紫の色

時季くれば数多あまたの苗露地植えに妻は精をだすキヌサヤエンドウ

角口の擁壁伝ふ赤きバラ今を盛りと赤く華やぐ

養魚場夜ともなればわが垣根明るく照らす防犯灯は

擁壁かさに高上げかさをして幾日か赤あけの紅菱くれなゐえてしまえり

葉の散らふシマヒイラギ地境にわがスコップ持て掘りあぐねつつ

病室の窓に見上ぐる飛行船ゆつくりふうはり西より東へ

東の空ひんがしに消えゆく窓の辺に少しの間眺めていたり

デールーム真向かう白きビル一つ一際高く聳そびえ立ちおり

風車まわる緑が浜の埋立地防風林の松枯れいかに

黄昏たそがれの沖に浮かべる姫島の暮れゆく今日の大き落日

朝の日はキャンバスに絵の具色変えて今日の一日を描きゆくごと

再びのわが入退院妻と嫁送り迎えにひたすら感謝

さ庭辺の水遣りすると決めてよりプランター鉢露地に掛けゆく

忙しげに妻が食事の支度と猫クウの世話感謝するのみ

## これからを

埼玉 矢崎 直人

尽くせずに言葉に出来ぬだからこそまた今度詠もう今度こそまた

これからをどうかここに拵えてみられるものにしていく時か

これまでと異なる選択試みるゆつくり一歩じつくり一歩

話すより歩ひて書ひて行ける道その早さこそ拓かれる道

渋谷川一歩一歩の一本橋白鷺一羽悠々ゆけり

もう一度出来るところからやってみようゼロから一歩踏み出してみぬ

何者で無き吾の聴く雨の音水無月深くなりてゆきけり

昨日より明日をおもふ雷と雨の強まる音を聴きつつ

カミナリの音アメの音聴く夜の片づけあすを考へること

書かなくばならぬ書類もいでこぬと梅雨は短く終わってゆけり

アパートで一人で聞きぬ滝のよな雨音はもう思ひ出の音

カッパ着て犬に傘差しイヤイヤの犬の散歩のカッパの軀

向ひ側駅に行くバス先に来て並び待つ人運ばれて行く

十五分遅れてバスはやってきぬ乗り降りの客まばらなバスに

目に見える身の回りから片付けば頭の整理心の整理

『いじよよせ』

西浦公民館 いーはとぶ

死ぬことの意味さへ知らぬ幼子の露と消えゆく戦場<sup>いくさば</sup>哀れ

水野 絹子

裏庭に知り合ひのごとき顔をして現る三毛猫君は誰かな

ひた走る秋葉街道塩の道<sup>みち</sup>兵らのざわめき風の中に聴く

またここも一人暮らしとなられたるか知らぬ間に今日人づてに聞く

牧原 規惠

わが家の隣の解体進みたりわが隠したき物まで現はか

通りよりわが風呂窓の影ありて風流にすだれかけてみる

万緑の中を夫とドライブす吾の好きな道設楽への道

稲吉友江

道の駅に寄りて食さむ五平餅素朴なる味ふる里の味

「こんにちは」と声掛けくれる下校時の少年の背に初夏の風

通園のバスにやうやうのぞき見ゆかはゆきマスクのかはゆき子らよ

鈴木美耶子

道の辺に一叢咲けり矢車草蔭にかくれてかくれんぼせしゑ

またしても悲しき映像流れゐる行きし思ほゆかの日の知床

穀雨時若緑広がるわが庭に朝の光と春風の中

吉見幸子

君子蘭十八本咲きて驚きぬ居心地良きかなこのコーナーよ

改札口又会へたねとハグをする今年三度目孫との絆

バイパスに太き黒きが横たはるひかれし蛇か上を通りつ

牧原正枝

これからは個食がつねの世のなかか窓あけ放ち鳥の声待つ

三回忌おへてやつぱり元の位置君が机に私の「こけし」を

なき程の今や小さきわが庭のどこに植ゑよか新たな金枝花<sup>エニシダ</sup>

森厚子

三つ石にもふ芝並べ下草も植ゑて窓辺の坪庭とせむ

ミニトマトパセリピーマンカモミール小さき庭にも金枝花植ゑむ

紅色の花舞ふごとく満つにつきウグヒスカグラ賑やかにたつ

山崎俊子

さ緑の楓の若葉雨のせて撓ひて跳ねて人厭ふごと

陽にやかれ草引くことの久しくて思ひでは泛ぶ去年の夏の日



なかなかに進まぬ仕事を前にする我に一枚の紙渡す人よ

伊藤晴江

久しぶりの二十年來の同僚らの真黄な笑ひ声今に変はらず

我が庭にも<sup>もじすり</sup>鍬<sup>そう</sup>擦草の生<sup>は</sup>えゐるをやうやう気づく名を知りて今日

伯母さんを「モトさん」と呼びて叱られし幼きかの日のふるさとの道

三田美奈子

盲目の伯母さんは母の姉さんにて吾が家にはよく遊びに来られき

伯母さんの道案内は吾が役目迎へも帰りも手を引きたりき

# 現代学生百人一首

東洋大学

炎天下夏にせかされ咲く恋は秋に枯れ行く極楽鳥花

千葉県立松戸馬橋高等学校三年

小野温音 18歳

現実で世界平和を願ってもゲームの中では大量虐殺

千葉県商科大学付属高等学校二年

横田虎之介 17歳

彼が打つボールは綺麗にゴールへと私のハートに3ポイント

千葉市立葛城中学校二年

神原結奈 14歳

磯の匂い思い出すのは祖父の家津波に流され消えた故郷

麗澤中学校一年

井澤莉子 13歳

オンラインカメラをオフにし忘れて放送される自分の寝顔

開智日本橋学園高等学校一年(東京都)

高田陽太  
16歳

僕たちの成長みてきたとしまえん別れの感謝火と水の音

慶應義塾中等部一年(東京都)

高原煌世  
14歳

コンビニでビニール越しの店員の声が聞こえず聞き直す我

慶應義塾中等部二年(東京都)

山中圭  
14歳

背番号全員付けて挑む夏いつもと違う特別な夏

国士舘高等学校三年(東京都)

大熊将晴  
18歳

『俳句』

三叉路の小さき洪滞凌霄花

植村公女

月今宵見知らぬ人とハイタツチ

泡立草流れてをりぬ風之道

白薔薇に雨ひとしづくお気に入

木村歩歩

神宮の清正の井戸かきつばた

倫敦の雹に踊るやバーバリ

平渴き洗濯物に夏至の月

紫陽花や線状降雨に流されて

八段の植田や頂には雲

今泉如雲

向日葵や看板大き看板屋

軒下に魔除けの網や大雷雨

十葉の花の真白し夕まぐれ

今泉由利

錦木の花をたむけるおかあさん

振花の振じれたままの蓬けたち

弥生期を今に繋ぐる稲の花

雨粒の加減に撓むねこじゃらし

朝六時エントランス訪ふ毛虫かな

矢崎直人

ジヨギングを終ゆ六月の風のよし

ジヨギングの距離を延ばせし梅雨晴れ間

青空や仰向け足掻く黄金虫

借りてこぐ父の自転車灼けし腕

## 附 録 (二) 矢 崎 直 人

### さいたまの地元に戻る梅雨の入り

六年間一人暮らしをした高円寺のアパートを引き払い、さいたまの両親の元に帰ってきました。一月いっばいで会社を辞めてから就職は決まっておらず、二年ごとのアパートの契約更新にあたり引越しすることを考えていましたが、結局仕事も引越し先も決めることが出来ず地元に戻って今後のことを考えることにしました。

高円寺に来てから増えたものを引越し業者から送られて来た十箱の段ボールに詰め込むと、そのうちの四箱には本のたぐいがぎっしりでした。さいたまのマンションの自分の部屋はアパートの部屋よりも狭いので、一人暮らしをしていた時に増えた分の荷物をおさめるために部屋に残していたものを処分し、それでもおさまりきらなくてまた処分しました。両親は年金を貰える年ではないので定年前よりは仕事の時間も量も減ってはいますがまだ働き続けているため、私は昼日家事手伝いをしていきます。先日、自分の部屋にいと雨が降り出したことに

気が付かずしばらく経ってから慌てて洗濯物を取り込みました。アパート暮らしの時は洗濯物を干せるスペースがなかったので、洗濯機で洗濯物洗うと近くのコインランドリー持って行って乾燥機にかけていました。築六十年、木造二階建ての一階で、雨が降ってくると窓の外に湿地に生えている芋のような植物の大きな葉っぱに上から落ちてくる雨がボタボタと鳴るのですぐに分かりました。雨脚が強い時には轟音を立てていました。

ダダダダドドドドドダダダダ滝壺の中居るかの如し

アパートで一人で聞きぬ滝のよな雨音はもう思ひ出の音

最近ジョギングを再開しました。夕方になると家の周りを走ります。毎日猛暑で夕日が眩しくとても暑いです。水分を充分に取り準備運動をしてから走ります。一週間ずつ同じ距離を走って次の週には距離を延ばします。整理体操も欠かせません。

ジョギングを終ゆ六月の風によし

## 五感を澄ませば (2)

杉浦 惠美子

### りくりゅうべア

今年2月の北京五輪・フィギュアスケート・ベア競技におけるりくりゅうべアの躍進ぶりには目を見張った人も多かったのではないだろうか。私もその一人。特に木原選手は亡き母と同郷というだけの理由で、シングル時代から気になる存在でした。その彼がベアに転向し、二度も五輪に出場したのに、どこか控え目なふるまいで、結果も出せず、ひそかに心配していたところ、今回のあの快挙。

彼等の活動拠点カナダである上、競技がコロナ禍によって次々と中止になる状況下で気付き難かったのですが、実は、去年あたりから出場する競技全てにおいて好成績を残していたのです。

その上で団体戦の銅メダルに貢献。次いでラストの個人戦フリー。シヨートでは振るわなかったのに、遠目にも分かるほどの笑顔で滑る木原選手につられて三浦選手もどんどん伸びやかに。そしてフィニッシュ。感極まって泣き出した木原選手を優しく抱擁する三浦選手。こちらも思わずおいおいと貰い泣き。こんなこと初めて。

密度の濃いドラマを見ているよう。長いトンネルを抜け出した木原選手の気持ちや思うと感無量。

ならば、この感動を歌にできるだろうか。答えは否。何故か。それはこの場面をテレビという媒体を通して見ていたから。

歌人の三枝昂之氏によると

「短歌は人の体温が一番近い表現形式」

まさにその逆。詠歌においては、対象から離れば離れるほど感動は伝え難くなるのではないか。まして媒介を通してでは、もはや第三者的な立場での詠歌になってしまいう気がします。

正岡子規以来、「写生」ということを大切にしていたのもこういうところがポイントではないかと思えます。

三枝氏の言葉に納得すると共に、もう一つ私には短歌は「動画」(詩、特に叙事詩)に対して「スナップ写真」というイメージがあります。つまり瞬間を切り取るということ。

歌を詠むとき、僅か三十一音しかないのですから、瞬間に肉薄するためには、省略できる言葉は削ってしまう。それだけでもスナップ写真らしくなるのではないかと。

動画と違って長々と説明できないし、第一短歌は説明ではないと。もちろん言うは易く行うは難し。そんな意識を持つようにするつもりでもなかなか思うようには詠めません。

また短歌でしか表現できないことを求めれば、必然的に「対象にぐっと近づくと体温が感じられるほど」となるのではないかと。

りくりゅうべアに関して言えば、「貰い泣きしているわたし」の方に焦点を当てるべきということになるでしょうか。

また彼等の今後の活躍は楽しみではあるものの、もう二度と貰い泣きすることはあるまい、と感動というものの一回性を改めて感じたりもします。短歌によってもしそれを留めることが出来たら言うことなしでしょうが。

四分の動画飽きずに見て居りぬ感動擦り切れ解っちゃいるが

## 楽しい時間 117

山本紀久雄

2022年6月30日

### 「明治天皇が鉄舟から得た判断基準」その二

明治天皇は、嘉永5年（1852）9月22日、京都の権大納言中山忠能（家禄200石）の家で、孝明天皇の側室であった典侍中山慶子を母として生まれ、誕生後七日目の七夜の儀に祐宮と名づけられた。当時、孝明天皇は二丁歳、慶子は十七歳。

中山忠能は慶子の父親、当時の習慣に従って、慶子は出産のために里帰りしていたのである。忠能の家は、天皇の生活する御常御殿（現在の京都御所の中心部）から北東約350メートルの所にあった。

中山家は、公家の四つの階層（上から摂家・摂関家・清華家・大臣家・諸家）の一番下、大部分の公家が属する諸家に位置づけられていた。しかし、中山家は、宮中の重要な政務に関わる議奏を務めており、中堅の公家といえた。

当時の公家は貧しく、中山忠能は慶子が祐宮を産むにあたり、産殿新築費と食費などで

2000両を宮中から借用した。現在の貨幣に換算するとおよそ2000万円位といわれる。

睦仁が生まれる前の嘉永4年（1851）11月、孝明天皇の正室であった女御の九条夙子（のちの英照皇太后）から皇女が生まれ、同年12月に、典侍の坊城仲子から皇子が生まれていた。しかし、皇子は同日に母とともに死亡、皇女も睦仁が生まれる三か月前に早世した。

祐宮（睦仁）は、孝明天皇にとって成長した唯一の男児であり、無事に育てば、将来、自らのあとを継いで天皇になる可能性があっ

たが、しかし、それは確定したものではなかった。

その理由は、中山忠能は権大納言であり、慶子は天皇の正室になれる五摂家の娘でなかったからである。既に孝明天皇には正室九条夙子があり、夙子は女御から皇后、皇后へと昇格していくことになっており、夙子に皇子が生まれ成長したなら、祐宮が即位する可能性は低くなってしまう。また、伏見宮貞教・有栖川宮熈仁・同熈仁の三人が、それぞれ仁孝天皇・光格天皇の猶子（養子）として親王宣下を受けていた。

したがって、夙子に皇子が生まれなくとも、祐宮が親王になる以前に、孝明天皇にもしものことがあれば、三人の親王の一人が天皇の地位を継ぐ可能性もあった。

このような背景事情があったものの、孝明天皇は祐宮の誕生の時から、唯一の皇子として大きな期待を抱いていた。「祐宮」の命名に際しても、自らが筆で名を書いた。

「祐宮」という名は光格天皇の幼名であり、光格天皇は幕府に対して朝廷の権威を主張しようとした人物であって、その試みは失敗したのであるが、尊王思想を活発化させる役割を果たしたわけ、孝明天皇にとっては理想の天皇の一人であったという。

五歳になった祐宮は、安政4年（1857）11月に初めて和歌を詠んだ。

月見れば（は）雁がとんである 水の中にもうつるなりけり

これは慶子の遺物の中に、慶子の自筆で書き残されたもので、慶子の指導が多少入っているにしても、祐宮の知的発達はかなりのものだったといえる。

万延元年（1860）9月22日、祐宮は無事に八歳の誕生日を迎え、9月28日親王宣下がなされ、睦仁となった。中山家から御所に移って4年の歳月が流れていた。

幼少年時代の睦仁の性格について、睦仁の乳人である木村ライの子で、「二歳から七歳の秋」まで遊び友達として育てられた木村禎之介が次のように述べている。（「明治天皇の御幼児」 太陽臨時



増刊 大正元年刊)

《聖上には御勝氣に在す丈けいと性急に在され、少しく御氣に叶は給ふことの出来れば、直ちに小さき御拳を固められ、誰にでも打ち給ふが例にて、自分など此御拳を幾何頂きたるか数知れず。何分自分は歳年下のこと故、恐れ多しといふ觀念は更になき上に、固より考への足らぬ勝ちなるより、常に御氣に逆らい奉りたること少なからず、其度毎にぼかんぼかんと打たせ給ひたり》

この木村禎之祐の記述は、明治天皇の親しい遊び相手として仕えた人物であり、自分がげんこつで何度も殴られたという回想であつて、このような回想が嘘とは思えず、さらに、明治天皇は父の孝明天皇に似て長身であつたことからも、体格には恵まれていたと推察できるので、幼少時代はきわめて健康で活発な少年であるというのが妥当な理解であらう。

万延元年(1860)閏3月、祐宮の「深曾木の儀」が行われ、「紐直の儀」も同月に行われた。深曾木の儀は、子供の頭髮の端を切りそろえ、髪が長くなることを祈るお祝い儀式。紐直の儀は、幼児がこれまで締めていた紐(付帯)の代わりに、初めて大人の帯を用いる祝いの儀式で、この二つの儀式は、祐宮が受けるべきさらには重要な儀式の序幕であつた。

同年七月、祐宮は勅命により正式に皇太子となつた。この日から祐宮は准后夙子の実子となり、宮中の席次は准後に次ぎ、准後の御殿に起居することになった。

同年九月、祐宮の立親王宣下の儀が行われ、居並ぶ諸脚の前で「睦仁」の名が、孝明天皇自身の宸筆で示された。これにより睦仁の立場は明確になった。

ところが、慶応2年(1866)12月、孝明天皇は突然に発病され、天皇の病勢は急速に悪化した。12日、高熱を発し、13日、病床につき、15日に発疹を生じ、その二日後、侍医は痘瘡(天然痘)と診断。12月24日、孝明天皇は激しい嘔吐と下痢に襲われ、顔には紫色の斑点が現れ、25日、断末魔の苦しみの内に息を引き

取つた。このような孝明天皇の死について、疑義を発表する学者もいるが、35歳という若さで亡くなったのである。

孝明天皇の死について英国公使館通訳官だつたアーネスト・サトウが回想録で、次のように書いている。(『外交官の見た明治維新』上)岩波文庫1960)

《私は、プリンセスロイヤル号の甲板で日本の貿易商人数名に会つたが、彼らは近迫した兵庫の開港に大いに関心をもち、外国人の居留地として適当な場所について大いに意見を吐いていた。

また、彼らは、天皇の崩御を知らせてくれ、それは、たつた今公表されたばかりだと言つた。噂によれば、天皇は天然痘にかかつて死んだということだが、数年後に、その間の消息に通じている日本人が私に確信したところによると、毒殺されたのだという。

この天皇は、外国人に対していかなる譲歩をなすことにも、断固として反対して来た。そのため、きたるべき幕府の崩壊によつて、否が応でも朝廷が西洋諸国との関係に当面しなければならなくなるのを予見した一部の人々に殺されたというのだ。この保守的な天皇をもつてしては、戦争をもたらず紛議以外の何ものも、おそらく期待できなかったであらう。

重要な人物の死因を毒殺にもとめるのは、東洋諸国ではごくありふれたことである。前將軍の死去の場合も、一橋のために毒殺されたという説が流れた。

しかし、當時は、天皇についてそんな噂のあることを何も聞かなかった。天皇が、ようやく十五、六歳になつたばかりの少年を後継者に残して、政治の舞台から姿を消したということが、こつこつと噂の発生にきわめて役立ったことは否定し得ないだろう。孝明天皇の後継者たる睦仁は十四歳であつた。その上、睦仁は元服を済ませていながつた。踐祚するために事前には諸種の儀式が必要だつたが、慶応3年(1867)1月9日、踐祚の式は小御所で行われた。次号へ続く。

## 『酔いの徒然』（二二四）

丸山 酔宵子

### 『ビヤホール考』

地球温暖化の進行、異常気象の発生、コロナ禍そしてウクライナ問題と全世界、地球規模いや宇宙規模で大きな変革が起きている。

まだ梅雨の真っ盛りの季節なのに、連日35度を気楽に超えて灼熱の日々が続き、今日とうとう6月末での梅雨明け宣言である。

こんな日々が続けば、矢張りビール。ビールと言えば、昼から飲んでも罪の意識を感じないビヤホールは銀座7丁目のライオンビヤホールである。創業昭和9年、銀座7丁目の大日本ビールの本社ビルに開店した「天下第一の建物に、後世に残るビヤホールに」の想いを込められた空間は、創業以来全く変わらない佇まいを保っている。

天井高い尖塔と壁面にはモザイクが施され、正面にはビール造りの巨大なモザイクが堂々と掲げられている。昼下がりには、パナマ帽をお洒落にかぶり、ステッキを突いたお洒落な老人が、美味しそうにジョッキを傾けている。

### 天井に響く乾杯ジョッキの音

酔宵子

ビヤホールと言えば、日本のビール文化に強烈な足跡を残した幻のビヤホールが大阪梅田新地の同和火災ビル地下にあった「アサヒビヤホール」である。

「タラ・ラッタ、タラ・ラッタ、タラ・ラッタ・ラータ・ラッタ・・・」とトランペットとアコーディオンに合わせ、正面舞台では腕の長さほどもある陶器製ビヤマグを両手に抱えて、ビヤホール名物5リッタージョッキの回し飲みである。満員の吞兵衛達が、ジョッキ片手に大声をあげて歌い煽っているのである。最後の回し飲みのお客がビヤマグを飲み干すと、割れんばかりの歓声と乾杯の歌の大合唱の始まりである。

「アイン・プロージット、アイン・プロージット、デル・ゲミュートリヒト・カイト・・・、アイン、ツヴァイ、ゾツファー・・・乾杯！」

と突然、常連客がジョッキ片手に舞台上に登場し、「六甲おろし」に、颯爽と・・・蒼天翔ける、日輪の・・・と、阪神タイガースの応援歌「六甲おろし」の大合唱である。

「・・・今夜の巨人戦ですが、6回裏で2対1でタイガー

スが1点リードしています。掛布が一発ぶちかましました。フレーフレー、タイガースーフレー、フレー、フレー・・・」

そのうち檜の木の頑丈なテーブルの上では踊りを踊りだし、奥にある調理場付近からはフライパンを打ち鳴らし、ムカデ踊りの始まりである。300席もあるうかと言う天井高く広いホールの老若男女が、前の人の肩に手を置いて、乗りの良い音楽に合わせて広いフロアでのムカデの行進である。たまには、興に乗りすぎて、地下のホールから地上の梅田新地まで飛び出したこともあったのだ。

このような痛快なパフォーマンスは、医者、新聞記者、大学教授、府警幹部などビールをこよなく愛する常連客の自発的に結成したオクトーバーフェスト委員会が仕掛けた、大阪らしい文化なのである。

これをそそのかし支えたのは、慶応ボーイで、悲惨なビルマ戦線からポロポロの姿で生還し、戦後進駐軍に接収されていたアサヒビヤホールに一ボーイとして採用された、今は亡き九州男児の高松卓さんなのである。個人的なことであるが、30代の半ば頃、毎日のようにこのアサヒビヤホールに通い、高松さんにビールについていろいろ教えていただいたことが懐かしい。

### 繋がってムカデ踊りや夏の月

酔宵子

後年、ミューヘンに行った際、巨大ビヤホールでアドルフ・ヒトラーが数千人を前に演説した彼の有名な「ホフブロイ・ハウス」に行つて美味しいドイツビールを満喫したのだが、ホール中央にトランペットやバイオリン、アコーディオン、ドラムなどを揃えた大楽団がビヤソングを朗々と奏で大観客と一緒に乾杯ソングを熱く演奏していたのである。

これは、日本代表として、やらねばならぬと、おもむろに舞台にのぼり、トランペットの音も高らかにドイツ語で乾杯の歌を歌つたのである。

「Ein Prosit! Ein Prosit! der Gemüthlichkeit! ... Eine  
Zwei Drei! ... Zoffa!!!」

いやはや、ヒトラーの演説した場所で、拙いドイツ語で歌ってしまったのであるが、それは大変な拍手を頂戴し、みんなから乾杯の連続でありました。

### ヒトラーの亡霊払う暑気払

酔宵子

## 歌え童謡空高く

高橋育郎

空は青いよ 上天気

若さあふれて きらめいて

心も晴れて 歌日和

ラララ笑顔の 花が咲く

みんな元気だ この集い

みんな元気だ この集い

声高らかに 歌おうよ

百年の歴史 いまもなお

ここ幕張に 風そよぎ

心豊かに 彩るよ

甘い香りが 漂うよ

新たな響き とどけよう

若さあふれて きらめいて

## かあさんいますよ

高橋 育郎

カエルの赤ちゃん ポチャポツチャン

水にもぐって 遊んでいたら

かあさんどこへいったのか

コロロンかあさん どこにいる

さがしていたら かえってきたよ

ああ かあさんだ とびついた

きつねのぼうやは 山のなか

あそびつかれて かえってみたら

かあさんいなくて さびしいな

コンコンかあさん どこいった

いつになったら かえってくるの

なきべそかいたら かえってきた

かつぱの赤ちゃん 川のなか

おうちへかえろう いわのかげ

かあさん どこへいったのか

まってもなかなか かえらない

かあさんこいしと なきだした

そしたらかあさん かえってきた

うさぎのぼうやは 原っぱで

あそんでいたら まいごになった

ゆうがたくらくらくなってきた

はやくおうちへかえりたい

めそめそしくしく なきだした

そこへかあさんとんできた

## 絹の話 (141)

「アトリエテレビ」今 泉 雅 勝

### 貝紫を染める

1997年、私共（インド染織研究会）は三河湾の  
一色漁港の日曜日の競り台を借りて、地元で獲れるアカニ  
シ貝で「貝紫」を染める事を始めました。

貝紫の色は澄んだ赤みのある色で、精神ストレスに効  
果があると言われ、古代西洋では「力が宿る」色と信じ  
られていたようです。

### 佐久島の島興し

三河湾の佐久島が島興し（アカニシ貝等の漁獲物を  
獲って付加価値をつけて売る）に貝紫染めをしようとい  
う事になり、名古屋工業大学の先生と私（筆者）が島の  
人達に染色の技法を伝えるに行きました。当初はマスコミ  
にも取り上げられ、体験会場なども整備され、徐々に観  
光スポットになって来ましたが、観光客が増えて来ると来  
島者から貝の匂いが臭いとクレームがつき、閉鎖のやむ  
なきに至りました。

日本で古代の貝紫染めをだれでも自由に安価に体験で  
きる所が無くなってしまった事は残念です。

しかし私共は会場を変えてコロナ禍の2年を除いて、

5月の紫外線が強くなって来た時期に休まず実施して来  
ました。研修者の中には国際貝紫研究会で活躍する人も  
出ています。

### 貝紫染めの今昔

貝紫は紀元前16世紀頃フェニキアで染められ始めた  
フェニキア紫で、貝から獲れるその染料は極めて少量、  
高価でアレキサンダー大王はじめローマの皇帝や貴族、  
クレオパトラなどの権力者が独占的に使って来ました。  
それゆえ帝王紫（ロイヤルパープル）、クレオパトラ紫  
などとよばれて来て、その製法は極秘にされました。

しかし東ローマ帝国滅亡（15世紀）の頃頃になると世  
界の桧舞台から消えて行きますが、染色法の開発も進み、  
キリスト教と共に続けられて来ましたが、いつの間にか  
パープルではなくスカレットの赤になりました。

日本では弥生時代の吉野ケ里遺跡の発掘の中から絹麻  
織物の絹の部分の色が貝紫染めと認定されて、貝紫研究  
ブームが起こって来ました。

現在では南米メキシコのオアハカの海岸でインデオの  
男性がプロポーズする結納品として荒海の危険な海岸の  
岩場に付着している1枚貝（ヒメサラレイシ）を糸に  
押し付け紫に染め、彼女のもとに持参する風習が続けら  
れています。その調査実習が行われ、広く雑誌等で紹介  
され、国内外の研究と実務者の活発な活動が始まりまし  
た。

## 貝紫染めとは

温暖な海に生息するアケギガイ科の貝（肉食）のパープル腺液（二枚貝などを捕食する時、捕食する貝を麻痺させる）を染料に塗りしませて、直射日光に当ててパープル腺液（臭素を含むジブロモインジゴ）がクリーム色から紫色に変わる染色技法です。

この紫色は空気酸化と紫外線によって発色するので、日光堅牢度はラックダイ（カイガラムシ）や紫根とは比較にならないほど強靱です。

それ故、ローマに赴くクレオパトラの御座船の帆布の日焼けを防ぐ為に貝紫で染め、ローマの貴族を驚嘆させたという話は有名です。

日本の律令時代、高貴な色とされた貝紫を装束の官位の色に使われることはありませんでした。それはあまりにも膨大な労力が必要で、均一な染色が不可能であったからであろうと思われます。

しかし古くから伊勢の海人さんが自分達の潜衣や頭巾に海難魔除けの印を描いて来ていました。

## 貝紫の染色法の発展

### 直接塗布

古来から行われている染色方法で、貝のパープル腺のある部分を割ってパープル腺の中に筆を入れ、その練乳の様な液を筆や版木などで直接に糸や布に塗り染める。

またはパープル腺液を器に取り集め、よく攪拌し海水で液の濃度を調整し、薄布等で不純物を濾した液に糸や布を漬ける方法があります。

どちらも紫外線に当てて発色させますが、紫外線の弱い曇りの日の発色は紫グレーの様な色になり、干すのは長波光の多い夕方より短波長の多い朝の光の方がすつきりした発色になり、色にも筆舌し難い迫力が出来ます。

## 染液化した加工染料

近年開発された貝紫染め染料として発売されています。炭酸カルシウムとハイドロサルハイト（還元剤）を使い、熱を加えて染色する方法でムラなく均一に染まり、今日の一般的な貝紫染めになっています。

## パウダ化した加工染料

近年秋山眞和氏によって開発された、パープル腺液を乾燥粉化し、いつでも染められるようにした還元建方法。

## 貝紫染めの難題の解決

貝紫染めは染色中もその後も染料の中に含まれる臭素の為、染色後狭いところ保管しておくとしつ減臭しますが、臭いが気にならなくなるのに数年かかります。染色直後に数日直射日光と風にさらすと臭いは消えます。

# 「江上浩二の独り言」 56 江上浩二

## 狙い

撮影旅行程でもないが12年前の2010年の8月に訪れた栃木の今一市でのお話です。12年前の夏も35度を超える猛暑日が東京では続いていたが、当日道中の埼玉辺りまでは東京と同じ炎天であったが、栃木の日光まで来ると、雲行きが怪しくなった。小雨もぱらつく中、猛暑を忘れる気配でぶらぶらしながら、デジカメで写真を撮り取めた。



時々ではあるが、近場を訪れ、先端技術が詰まったデジカメで写真撮るが、なかなか気に入ったものが撮れないのが正直な処である。最近ではフィルム銀塩写真と違って、高価なフィルムとその後の焼き付けコストを全然考ええにせず、デジカメのシャッターを押し続けてしまう。

そんな人の行為はフィルムからデジタル（光を感じる

半導体素子が2次元平面に配列させられている）へ変わったことで、無意識に変わっていて、自分でも気が付いていない。沢山シャッターを押せばその中には一つ、美味しい写真もあるだろうと勝手に撮り続けてしまうようである。

最近のモバイル機器には前方、後方（写真の取り手側）の様子が撮れるように2つのカメラレンズを備えたものもある。しかし、自分の背後、背中を無意識に撮ることなど想像にもしていない。どこか人気がない道を歩いていて、隠れた防犯カメラでパチリとやられ、何か後になって、おまえ、いついつごろ、あの辺りをうろついていたな」と言われても、それは後姿ですから、きつと間違えでは」と問答をするようなことも、確率的にはゼロでない世の中になって来ている。

本来の今一市訪問は別の河原での花火観光という目的があったのであるが、同行していた知り合いから、最近になって写真を頂いた（といっても、12年前のメールシステムでは添付ファイルは容量制限があるので、デジタルファイルをサーバーから直接ダウンロードした）。それは日光街道のはずれの大木杉の写真である。近在を散策していて、途中の大きな杉の木が気になって撮ったのである。



もっと高く伸びようとスリムな胴体を2枚の写真に分けて撮ったものを、敢えて一本に合成してある写真である。空へ向けて一気に挑戦しているような雰囲気を感じさせる大木。この写真の枠の世界では大木だか小木だか分らない。大小関係が削がれている単なる写真に過ぎない。しかし、知り合いが送ってくれた写真で、初めて物事の大小を比較できる基準を真ん中に殿とさせてくれた。その大木を撮影していた私の後姿をご覧いただければ、街道筋の杉の木が小木でないことは気が付く。

こんな他愛もないことを書いていたら、その写真を送ってくれた知り合いからメールを頂いた。それを引用させて頂く。

一羽の奇妙な大きなカササギが南の方からやってきて、莊子の額をかすめ栗林の木にとまった。そのカササギを射止めようと矢をつがえて狙ってみたら、カササギが蠅螂を狙っていることに気がついた。その蠅螂は、一匹の蝉を捕らえようとしている。蠅螂も鳥も自分も、己の利だけを見て周りを見ず、我が身に迫る危険を考えてもない。莊子は愕然とし弓を捨てて栗林を出たら、栗林の番人に追いかけてられてこっぴどく怒られた。こんな挿話が莊子にあり、狙っている物が狙われているという構図だそうです。

気が付かずに、私が背後から狙われているとは、私がかササギ、蠅螂、果して蝉役なのか無限の連鎖に陥りそうで、これ以上の詮索は御終いにしたい。

実はその大木の脇の空間には、人工の大木が地上の人達を見張っていることに気が付いた。人は便利になると山間など何処にいても、モバイル、携帯が繋がらないと文句をたれる。しかし、その文句は、自分の視界にあるうかなかろうかお構いなく人工の大木塔（携帯電話の基地局のアンテナ）に支配されている現代の我々の賤しさである。この説明で想像できる構図・絵柄・サイズ感と併に、私が呟いた「真夏の間隙、涼しさに人工の大木が鎮座す」。出来の悪い蠅螂。



いい大人が一人（知り合いが撮ってくれたもの）



初狩便り(9)





## 出穂（しゅっすい）

八月の初狩は暑い。それでも朝のうちは涼しく、田んぼには燕が飛び交い、畑では朝露をまとった野菜たちのかわいい花が見られる。（上段右は落花生、左は大豆、下段右は南瓜、左はピーマン）

真夏の太陽を浴び、稲は分蘖を進め一本一本が逞しく緑濃くなっていく。そして立秋の頃、毎朝、田の水見をしている主宰から、「出穂しました！」と連絡が入る。良かった！ひと安心。出穂の時期に天候が不順だと、受粉が進まず、収穫量に影響がでる。晴天であればいいというわけでもなく、温度と湿度も重要な要素になり、雷の多い時期でもある。雷光を稲妻とも言い、古代の人は雷が稲を孕ませると考えていたという、すてきな話もある。出穂後に晴れて暑い日が続くとおいしい米ができる。人間にとっては厳しい暑さも稲には恵みである。

太陽が西の山に沈むと、温度は下がってゆき、涼しい風も吹く。蚊取り線香を焚き、畑で収穫した茄子ピーマンの味噌炒め、トウモロコシ、枝豆を肴にビールを飲み、花火をして、ゆく夏を惜しむ。

## 本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田のひとり言

<https://hondachiro.exblog.jp/>

2022年7月6日

### 台風の身体への影響

いきなり気温が下がりますこしやすくなりました  
とくに

蚊 などでも活発になるので注意が必要です

今回の気温の変化は台風が原因だそうです・・・

気温より気をつけなくてはいけないのは 気圧 です

気圧の変化は

頭痛

睡眠問題

腹痛

下痢

頭がスッキリしない

などなど様々な症状を誘発します

それに加え急激に気温が下がると

ぎっくり腰 きっくり背中 きっくり首などの

ギックリ系になってもおかしくありません

とくに

風が強く吹くと様々なアレルギー物質が飛んできます

中々ですよね

3S+ゆたぼん+ヨーグルト

湯船にゆっぴりつかい

腰や尿に問題がある場合は ゆたぼん をへその真裏

の腰に

5分位置いて腎臓を温めて下さい

それからいつもの場所に置き腸を温めて下さい

今日も笑いながら行きましょー

2022年7月8日

## アレルギー症状

今朝は風が心地よく気持ちが良いですね

前回の 本田のひとり言 にも少し書きましたが

風が強いとアレルギー物質が舞ったり運ばれたりして  
きます

ただでさえ

例年はゴールデンウィークが明けると

花粉症の症状が治まる方がほとんどでしたが

今年は6月になっても症状が出る方が極端に増えまし  
た

天気や気温がおかしいのと植物の成長が関係してそう

です

それに

身体の様々な変化も関係してそうですが・・・

ですので

風が強めに日は イオンスプレー などを利用したり

(汗で流れてしまう場合はマスクに噴霧)

寝具をバタバタしたり叩いたりして

アレルギー物質を減らしましょう

鼻水

くしゃみ

喉のシガシガからくるむせる咳

皮膚の問題

などで体力を削られない様にしましょう

今日も笑いながら行きましょう

康鍼治療院 (www.yasuhari.com)

玄翁

## 「夏バテのわけ」

夏は陽の期、暑さの気  
身体陽気が満ちてれば  
夏の暑さも何のその

身体陽気がある時は  
外の暑さに反応し  
気血が活発 汗かいて  
発散出来ればスッキリするする  
そしたら夏でも落ち着いて  
暑さも平気でやり過ごす  
むしろ暑さが心地よい

身体陽気が無い時は  
外の暑さに煽られ、心臓ドキドキ落ち着かず  
かえって疲れが募るのみ

夏バテ 汗をかきすぎて  
陽気と水が共に消え  
気力が奪われ弱るなり

汗カキ、不快で、怠くなり  
グダグダ・ダラダラやる気が出ない

避暑して、ガンガン冷房に  
当たれば陽気が奪われる  
暑くて冷たいモノとれば  
胃腸が冷えて弱ってく

胃腸が元気であるならば  
夏バテ自ずと遠ざかる  
早起き散歩で陽気を浴び  
て  
手足動かしや胃が動き  
夏でも熱い飲み物で  
胃腸を温め、冷やさない  
そしたら陽気が湧いてく  
る

夏に強けりや 長生き出  
来る  
胃腸は元気の源なり  
胃腸は養生の要なり



## 「いい匂いの役割」

匂いは気を動かす原動力  
匂いよければ、気が満ちて  
香樂しみゃ、気が動く  
気が動けば血も動き  
心も身体も活発じゃ

いい匂いを嗅ぐ様に  
息をするのが呼吸の基本  
いのちの働き整える

いい匂いを嗅ぐ様に  
鼻からゆっくり息を入れ  
匂いを楽しみ気を留め  
ゆっくりゆったり 吐く息を  
出せば、新たな気が入る

そしたら自然と深くなる  
呼吸がだんだん深くなる

こころも、からだも落ちつかせ  
ゆっくりゆったり息をする  
そしたら匂いが楽しめる

香も自然と豊かになる  
急せいては息が浅くなり  
匂いも香りもなくなるぞ

いい匂いを嗅ぐ様に  
呼吸をゆっくりするだけで  
息が背中を動かして  
内から息が広がって  
身体じわりとほぐれるぞ  
いい匂いを嗅ぐことで  
呼吸が深まり気が動き  
内が緩んでほぐれてく

いい匂いを楽しめば  
自然の働き取り戻す  
心も体も本来の  
自分のあり方取り戻す



家に還りて偶作る

横山精真

閑庭かんていに虫むしは響ひびきて征埃せいあいを払はらう

星ほしは枝梢ししょうに降ふりて涼氣りょうき 恢ひろがる

斜日しゃじつの乱蝉らんせん 何処いずこにか去さる

秋風しゅうふう今夜こんや 一時いちじに来きたる

還家偶作 平成八年八月

閑庭蟲響拂征埃 星降枝梢涼氣恢  
斜日亂蟬何處去 秋風今夜一時來



今年の梅雨は短く、六月に梅雨が明けたかと思つたら猛暑が続いた。記録的な早さだ。

この七月八月が思いやられる。

季節の移り変わりで思いがけない変化を吾が庭に経験している。

十二月の終わりに桜の黄葉が一度にドサリと落ちたかと思わせた、ある冬の事。

そして一夜にして秋が来たかのように感じたことだ。

平成七年のことだった。八月二十八日は記録的な暑さとなった。

この日、熱海より一泊研修を終え夕刻帰る。夕焼けが富士山の方一面にせまる中、相変わらずの蟬の聲が私を迎えた。お風呂を使い寛ぐとすっかり日は落ちていた。蟬の聲はびたりと止んだ。そして次第に虫の聲が聞こえてきた。

三日前までは聞かなかった気がする。

夜の涼しい風を入れながら昼と夜のお客さんが入れ替わったようで快かった。

そしてその夜限りにミンミンゼミの聲は聞こえず、遠慮がちにツクツクホウシが鳴きだした。

拙い詩に認めたせいかな、そんな事を何故か何時までも覚えている。

外国へ赴くを送る

今泉由利

雨上り雲散じ  
東風の良し

送迎する空路  
外国へ赴くを

今日君を送る  
須心を尽くし

明日は着地す  
旅漫漫と

## 送外国

雨上雲散 良東風

空路送迎 赴外国

今日君送 須心尽

明日着地 旅漫漫

### 語釈

- 東風 〓 東より吹く風
- 雨上る 〓 雨は止み
- 雲は散じる 〓 散つてゆき
- 空路 〓 飛行機での旅
- 須 〓 ぜひと
- 尽くす 〓 全部を出しきる
- 着地 〓 到着する
- 漫々 〓 安心して

### 通釈

親しい友が外国へ赴く。遊びだったり、留学だったり、仕事……。困ることが、惑うことがないよう、沢山心配してしまう。

自分の経験をふりかえらなくても、今の今の世の中に生きていることを思おう。

# 「氷魚」のことから (258) 岡本八千代

平成17年三月号「氷魚」のことから (52回)

春になつて雪がふり、春雨もふりつづいた。わか家の庭にも芽吹き出した赤いバラの芽が今年はとくに朱色が濃い。そして、その上にあふる雨。

ぐくねなるの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる。子規のこの写生・写生の中にある感動を私は自ら口ずさむ。

つい最近、児童文学作家、香山美子詩集「ちいさい おおきい」を、著者より直接贈ってきました。香山美子氏は、かつて、「おはなしゆびさん」のあの、「このゆびパパふとつちよパパ……略」とか、或は、「いとまき いとまきまきひいてひいて トントントンこびとさんの おくつ」、或は、「山のワルツ」「げんこつ山のためきさん」など、多くの詩の作詩者です。そして、今、「ありがとう」という詩の中で感じた一部をここに抜粋します。

「ちいさい こえのありがとう

おおきい こえのありがとう

はるかしそうなありがとう

うれしい ときのありがとう

びよんびよん とんでいる

ありがとう」。二連は、

「ふくれた かおで」「おこった かおで」

「べそかきそうな」「けんかのあとの」

「いやいやしてる」……三連は、  
「それでも それでも

ありがとうの なかに

ありがとうが ある

ありがとうの なかに (くりかえしに

ありがとうが ある) なつています。

という詩です。私は、なぜかこの詩の中にある相対性と、「松

蘿玉液」の中の子規の相対性と重ねて思うことができました。

例えば、「器の大小」では、「函は物を納めるべき為に作らる者、

其物小なれば函も随つて大なる便とす。而して其物に至りては

大にして善き者あり、小にして善き者あり。両者が各々特色あ

るを以て一を取り他を捨つべからざるは論なし。物已に大小あ

り、函豈大小なきを得んや。……以下略。」また、子規は、「お

もしろきものは相対なり、つまらぬものは絶対なり、悟なり。」

と言つておりますほどに、やはり、相対的思考と思えます。

相対とは、時、所、見方によってちがつていることでしょう。

私たち歌よみも、自分の見方によって、同じ実相を見てもその

人の心のちがいによってそれぞれの感じ方が異なることは当然

でしょう。写真・理想・主観・客観・感情・理性・等のように、

相対立する概念を發しますから……。つまり、その人その人の

發想のちがいが問題となつてくることでしょう。大きな広い、

いや小さくても美しい何かを發想したいものと考えています。

わが友、香山氏は、「雲をみるとき、そこに亡き人も住む、

別の国、別の街、別の野山を遠く、楽しく空想します。」と便

りにありました。私にはなかつた發想を感じています。

## 編集室だより【二〇二二年六月】

今泉 由利

○引越し先、非常にありがたい八百屋さんに出逢った。その時々、どんな種類も、収穫したて、山積にして、まず目から豊かになって、私の、今までの食習慣が、すっかり変わってしまった。

「さつと湯がく」この方法が一番の料理法で、だいたいの野菜、果物：そのまま、生のままいただいていた。今、一番面白いのは椰子の実。固い、一番外側の皮部分を取り除いてあるもの、そのままでは、まだ取りつく島がない。金槌と錘とをもち、すべったり、ころがったり、けっこう難しい。大奮闘を要する。でもこの作業も面白い。付属している太くて強いストローが、やつと椰子の果汁に届き、エスニックな味が面白い。タイやアンコールワット、ベトナム、ブラジル：すぐ飲めるようにして手渡して下さった日のことを、しみじみ思い返している、

○椰子の果液の電解質と、血漿のバランスは血液とほぼ同じに含有されていて、ラウリン酸と、サイトカインには、皮膚組織の維持効果、抗発癌性があり、血液を

凝固させない、アンチエイジング効果があると。ココナッツ、ヤシ科の単子植物、ココヤシの胚乳、種子が発芽する時に、養分となるものを、私の養分と、飲ませていただいているのだから、きつと簡単に老化しないつもり。

○山椒の枝に、ずっしり実がなっているのも、この八百屋で出会いました。日頃、本花山椒の、雄花の開花寸前を手づみした、つくだ煮風のを、ご飯に振りかけていただく。一年中、こればかり食べている。

雌木の雌花は、若い実や完熟した実とを、乾燥させ、その果皮を使用し、粉山椒をつくる。殺菌、鎮痛、麻酔効果に利用される。

ミカン科、サンショウ属、落葉広葉樹の雌木は、雌花、若い実、完熟した実と利用。幹は硬く、解毒作用があり「すりこぎ」に加工される。

緑色の果実が熟成され、赤い実になる。

八百屋でみつけた青い実のなる枝は、一粒一粒枝から実を外し、4〜5分湯がいて、あくを抜き、冷凍保存してある。これで一年中、必要に応じて使えます。

大脳を刺激し、内臓器官の働きを活発にさせ、いつまでも生きて、三河アラragiを製作し続ける…目論見。

## 「三河アララギ」について

- ◇三河アララギ発行所 〒一五〇・〇〇一三  
東京都渋谷区恵比寿三・四五・三  
フォーレストヒルズ三〇二  
ケイタイ 090・8434・8646  
TEL 03・6765・5838
- ◇URL <http://imaizumiyuri.jp/>  
E-mail [imayurizm@gmail.com](mailto:imayurizm@gmail.com)
- ◇三河アララギ誌は毎月発行します。
- ◇どなたも参加、投稿いただけます。  
三河アララギ編集室 今泉由利 までご相談ください。
- ◇原稿は毎月末日までに、発行所まで郵送、  
メール、お届け下さい。
- ◇会費制は廃止。
- ◇昭和七年、三河地域のアララギ歌人が集い、  
創立歌会が開かれ、御津磯夫主宰「三河アララギ」誕生。
- ◇令和四年現在まで一号の欠刊なく、続いてきました、続いてゆきます。
- ◇編集・発行 今泉由利